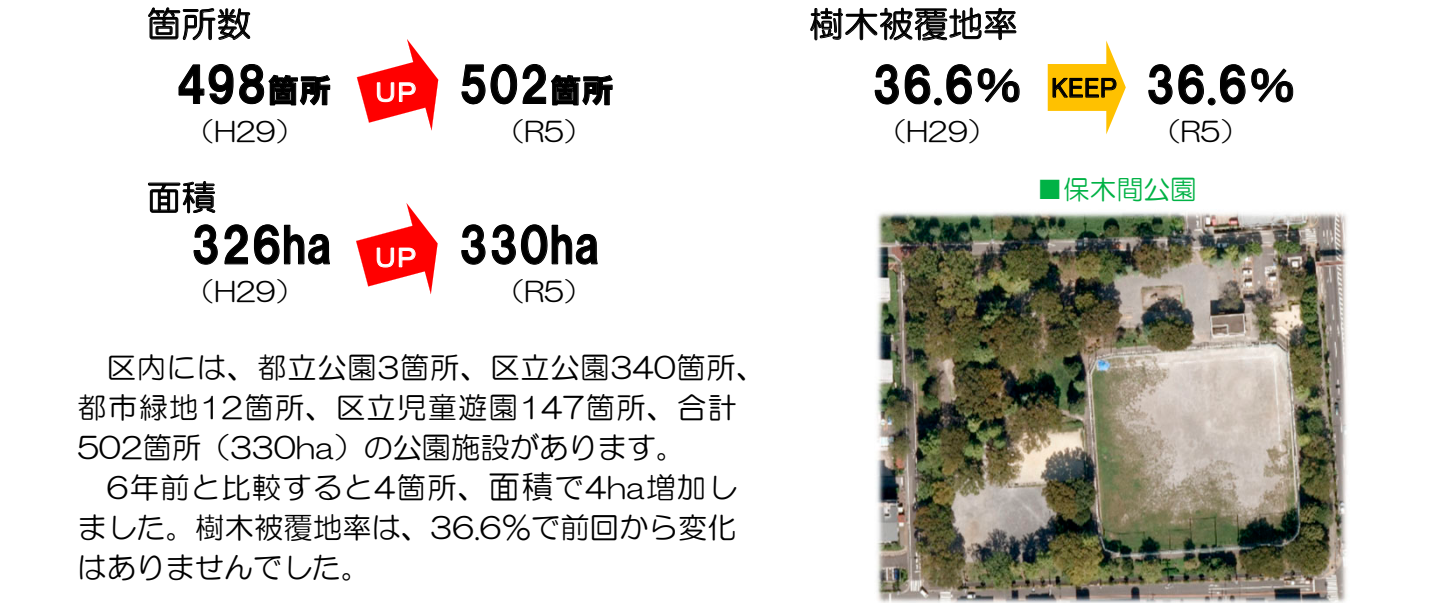
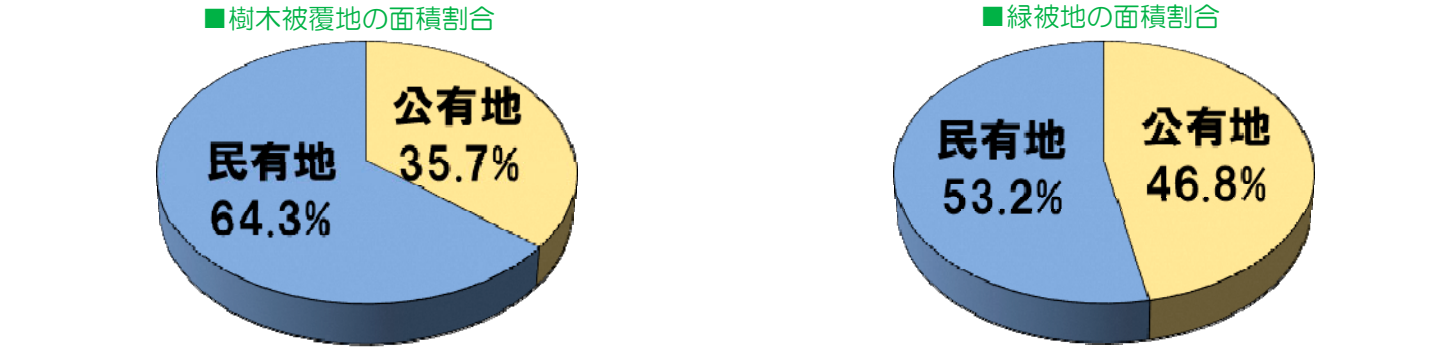


公園施設

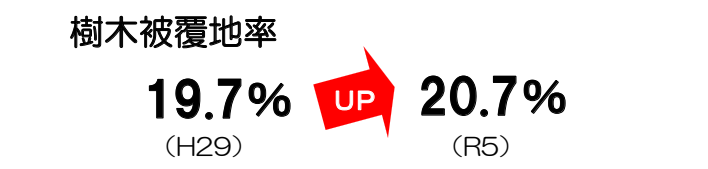


公有地・民有地

区内の樹木被覆地の面積割合を公民で比較すると、樹木被覆地の面積割合では、公有地35.7%、民有地64.3%であり、民有地の樹木被覆地面積は公有地の約2倍となっています。
樹木被覆地、緑被地ともに5割以上が民有地に分布していることは足立区の特徴の一つです。



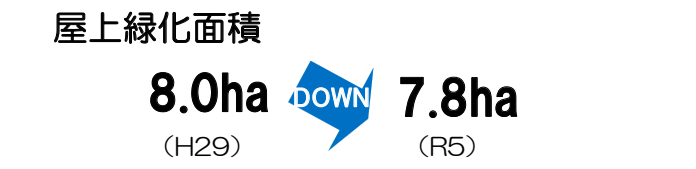
公共集合住宅



区内166箇所の公共集合住宅※の樹木被覆地率は20.7%で、6年前と比較すると1.0ポイント増加しました。
区全体の樹木被覆地率（9.7%）を大きく上回り、公園に次ぐ樹木の宝庫となっています。

※公共集合住宅
東京都や足立区、UR都市機構、住宅供給公社が管理・運営している集合住宅

屋上緑化



区内の屋上緑化面積は7.8haで、6年前の8.0haと比較すると、0.2ha減少しました。



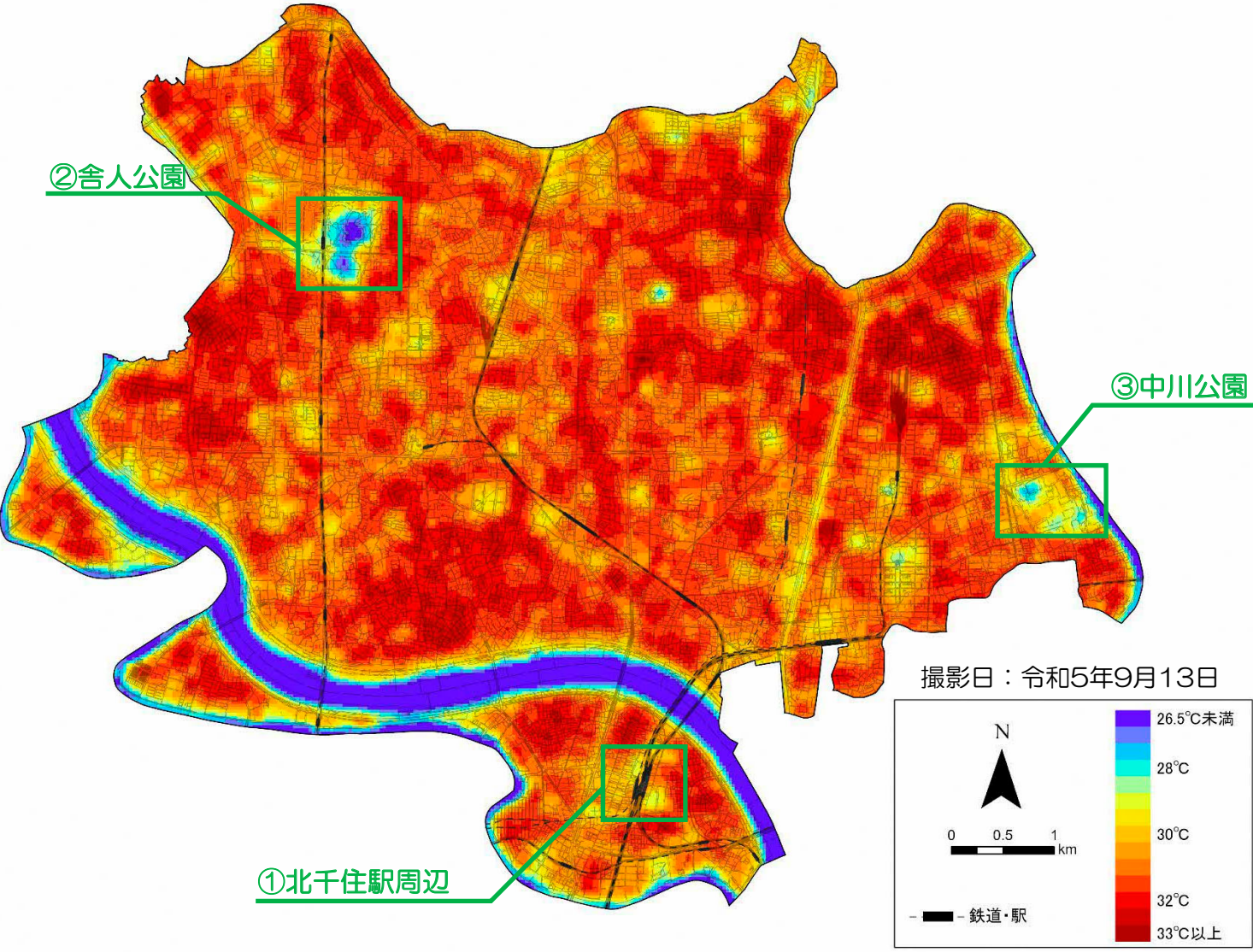
エリアデザイン

エリアデザイン計画とは、まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などをエリアデザインとして、広く発信することで、イメージアップや地域活性化を図る新しいまちづくりの取り組みです。



地表面温度分布図

撮影日の最高気温（東京都）は32.7℃で真夏日でしたが、舎人公園や河川沿い（荒川、隅田川、中川）では10℃近く低くなっている場所もあります。最高気温より高い場所は、入谷九丁目や佐野二丁目、本木北町など大きな公園が少ない場所でした。



①北千住駅周辺

北千住駅周辺は駅ビルや大学施設などの緑化が進んでおり、屋上緑化や街路樹など多く、建物が密集しながらも温度が低くなっています。

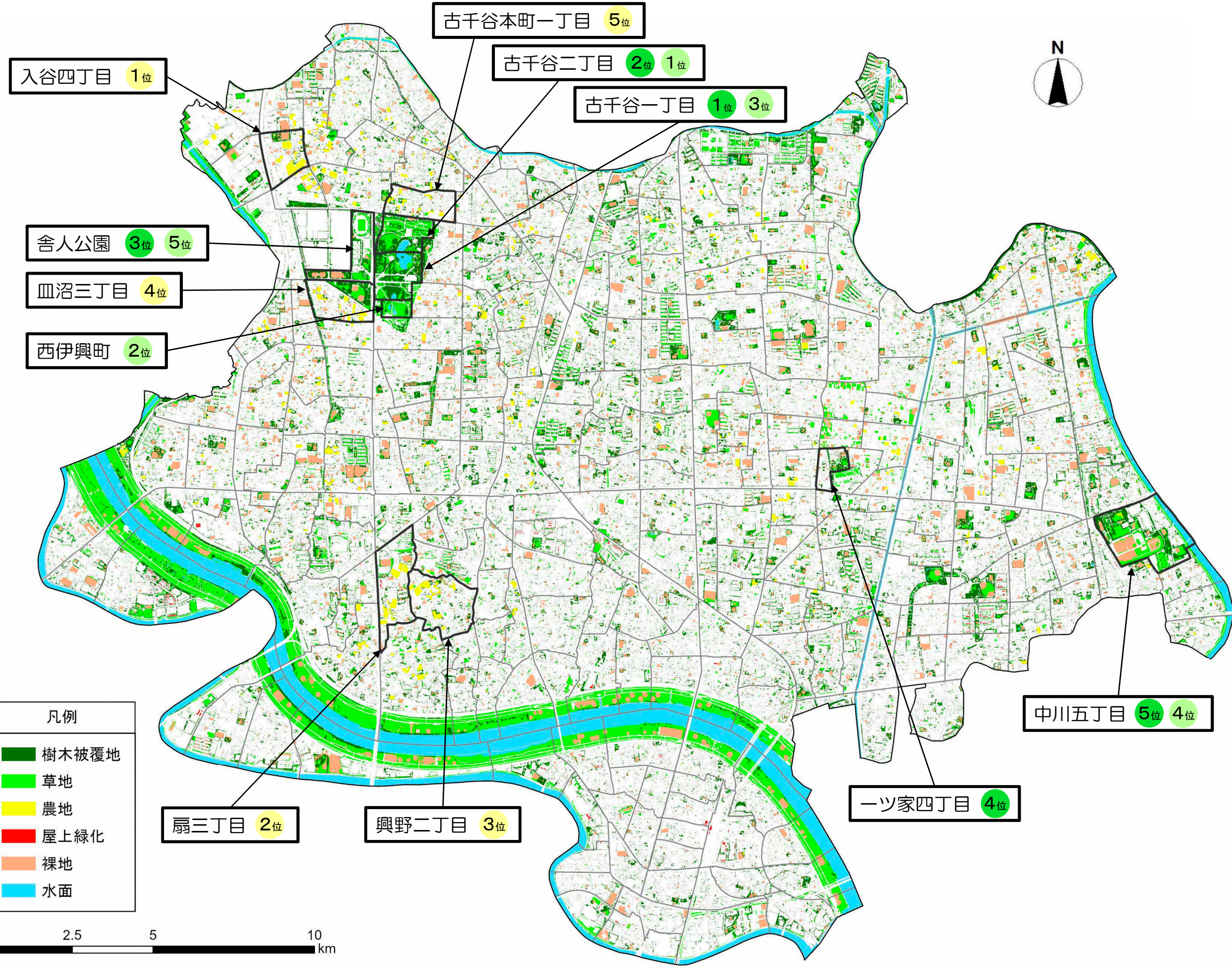
②舎人公園

舎人公園は、約64.9haに及び広範囲の公園です。中央に大きな池があり、樹木や草地に覆われ、公園全域および周辺の温度が低くなっています。

③中川公園

中川公園は、中川沿いにある現在開発中の公園です。草地が多く拓けた公園であり、河川沿いに位置しているため、風通しが良く周辺より温度が低くなっています。

足立区の緑被等分布図



凡例

樹木被覆地
草地
農地
屋上緑化
裸地
水面

■樹木被覆地率

順位	町丁目	%
1位	古千谷一丁目	47.1%
2位	古千谷二丁目	38.7%
3位	舎人公園	26.8%
4位	一ツ家四丁目	23.1%
5位	中川五丁目	22.3%

■緑被率

順位	町丁目	%
1位	古千谷二丁目	86.8%
2位	西伊興町	75.8%
3位	古千谷一丁目	71.3%
4位	中川五丁目	45.5%
5位	舎人公園	44.1%

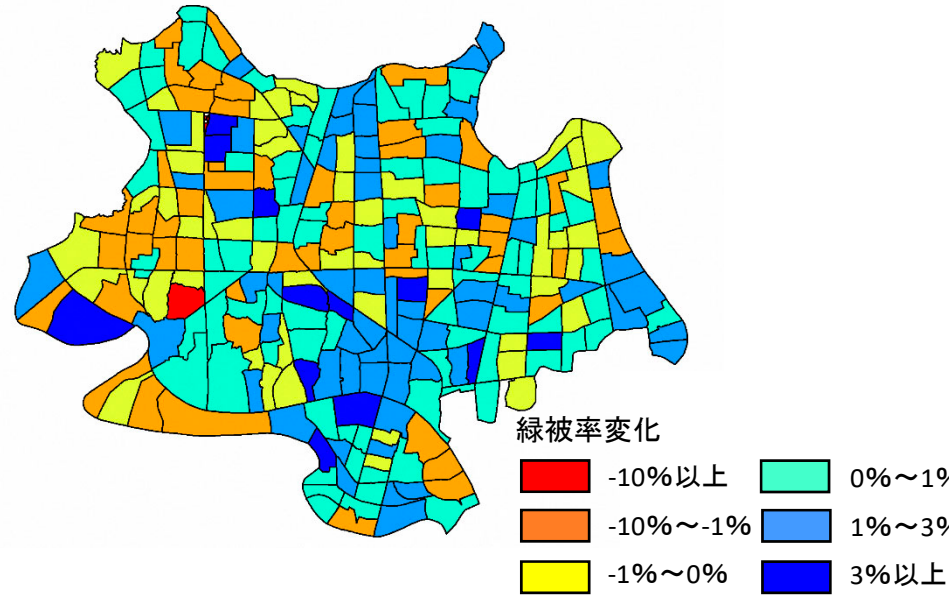
■農地率

順位	町丁目	%
1位	入谷四丁目	14.9%
2位	扇三丁目	9.0%
3位	興野二丁目	8.3%
4位	皿沼三丁目	7.3%
5位	古千谷本町一丁目	7.0%

町丁目ごとの緑の現状

特に緑被率が上がったのは古千谷二丁目で、12.5ポイント増加しました。舎人公園に位置する町丁目であり、公園の整備や樹木の生長が増加の要因になっています。
減少が目立ったのは江北四丁目で、12.6ポイント減少しました。前回更地だった場所に新たな建物が建ったことが原因です。

■町丁目ごとの緑の変化率



■古千谷二丁目の増加箇所



■江北四丁目の減少箇所



農地の現状

農地面積 ※1

56.2ha (H29) **DOWN** 40.6ha (R5)

生産緑地面積 ※2

32.2ha (H29) **DOWN** 27.1ha (R5)

区内の農地面積※1は40.6haと、6年前と比較して14.5ha、割合にして28%減少しました。そのうち生産緑地面積※2は27.1haで、6年前から5.1ha減少しました。減少のほとんどが農地転用による宅地造成が原因です。
維持していくことが難しい農地ですが、緑地保全の観点から、少しでも減少を抑え守ってきたいものです。

■農地が宅地造成された例（青井一丁目）

平成29年

令和5年

■過去からの変化（農地面積）

年	農地面積 (ha)
昭和59年	209.3
平成6年	142.7
平成16年	96.7
平成21年	74.9
平成29年	56.2
令和5年	40.6

※1 農地面積：空中写真を基に作成したデータから抽出した、農地の面積
※2 生産緑地面積：都市部に残存する農地の計画的な保全を図ることを目的として、一定の要件を満たす農地を都市計画として生産緑地地区に指定した面積